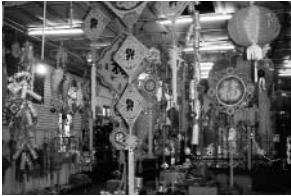


春節漫談

中国人にとって、世界のどの国にしようと、旧暦のお正月「春節」は一年中で最も大事なイベントです。

「春節」は字面から見てとれるとおり春のお祭りの意味です。旧暦の正月元旦は西暦では毎年違い1月末から2月の中旬ですが、立春前後であり、皆に喜ばれる季節である春から年が始まるという意味でもあります。

伝統的な「春節」の期間は旧暦の12月23日から正月15日までの約3週間で、除夜(大晦日)と元旦がピークです。この期間中、神仏や祖先を祭り、新年と福を迎え、全てのものの新陳代謝や豊年を祈って多彩なイベントを行い、中国民族の特色を十分に現します。



お正月用品売り場



爆竹

爆竹はお正月に欠かせないもので、2千年以上の歴史があります。新年到来の際に爆竹を鳴らすのが昔からの伝統です。除夜零時と元旦の朝門戸を開くとき、爆竹を鳴らして、火薬の匂いと爆竹の赤紙で一年の健康と好運を祈ります。中国では赤色は吉祥を現し、爆竹の音は喜ぶムードを作ります。

しかし、騒音と火事、傷害の恐れで、各都市政府は都市部での禁止命令を出しました。武漢市の禁止令は1994年からでした。静寂なお正月が春節らしくないと世論が年々高まり、武漢市政府は市民からアンケートを行いました。禁止に賛成と反対の比率は、ほぼ同じでした。議論の末、今年からやっと春節期間のみ(大晦日から十五夜まで)制限付きで解禁され、再び13年ぶりに都市部で爆竹の音が聞こえるようになりました。

武漢市花火爆竹販売会社の統計によりますと、春節2週間での販売高は5億円を超えました。

除夜(大晦日)

旧暦年の最後の夜。除夜の夕飯は「団年飯」と言い、家族を全員揃って食べて年を越す習慣があります。実家を離れて暮らしている人や出稼ぎしている人たちも、この晩のため必ず戻って来ます。北中国の人は餃子、

南中国の人は「年糕(もち米のしん粉蒸して作ったもち)を食べます。餃子は宝物の形に似ており、年糕は年々に高まるという発音と同じで、めでたい兆です。



「年々有余」の切り絵

勿論年越し料理に欠かせないのが魚料理です。魚料理は、全て食べあげず、必ず残します。これは、魚と余の発音が同じで、「年々有余」毎年余った分があるという豊かの証です。

「団年飯」を済ませ、子供たちが最も期待する時刻が来ます。家族の年輩者よりお年玉を頂戴します。筆者が子供だった80年代、100円が子供にとって大金で、ピカピカした新札でどんな珍しいものを購入しようかと頭の中が一杯になり、夜も眠れずに心待ちにしていました。近頃は、生活の豊かさに伴い、日頃から欲しいものを買ってもらえますので、今の子供たちは、お年玉を心待ちにする気持ちが薄れてきているように思えます。

伝統によれば、除夜は家族が火鉢のまわりを囲って座り、新年の到来を徹夜で待って迎えます(「守歳」年越しを守る)。今は、紅白歌合戦の如く除夜の定番である、新旧年を跨る娯楽テレビ番組「春節聯歡晚会」を見ながら待ちます。新年到来の零時になった際、一斉に爆竹を鳴らします。

武漢では除夜にお寺に初詣に行く人が大勢います。帰元禅寺や宝通禅寺など有名なお寺で、歩けないほどの人が集まり、家族の健康や来年の財運を仏様に祈ります。お線香の明るさは遠くからでもわかり、灰は毎日数トンに及び、数百名の警察や消防員が寺の塀外で常時待機しています。

大家族の団年飯

市内にある約10万人が住んでいる「百歩亭」団地では、団地住民が一堂に会して団年飯を食べる「大家族の団年飯」を行っており、今年で既に7年目になります。毎年住民たちがそれぞれの自家製料理を団地活動室に集め、一緒に食べています。2007年に参加した住民は1万人以上で、出した料理が3500品になったそうです。団地住民の相互交流を進め、優れた住居環境を作る一助になっています。



「百歩亭」団地での「大家族の団年飯」